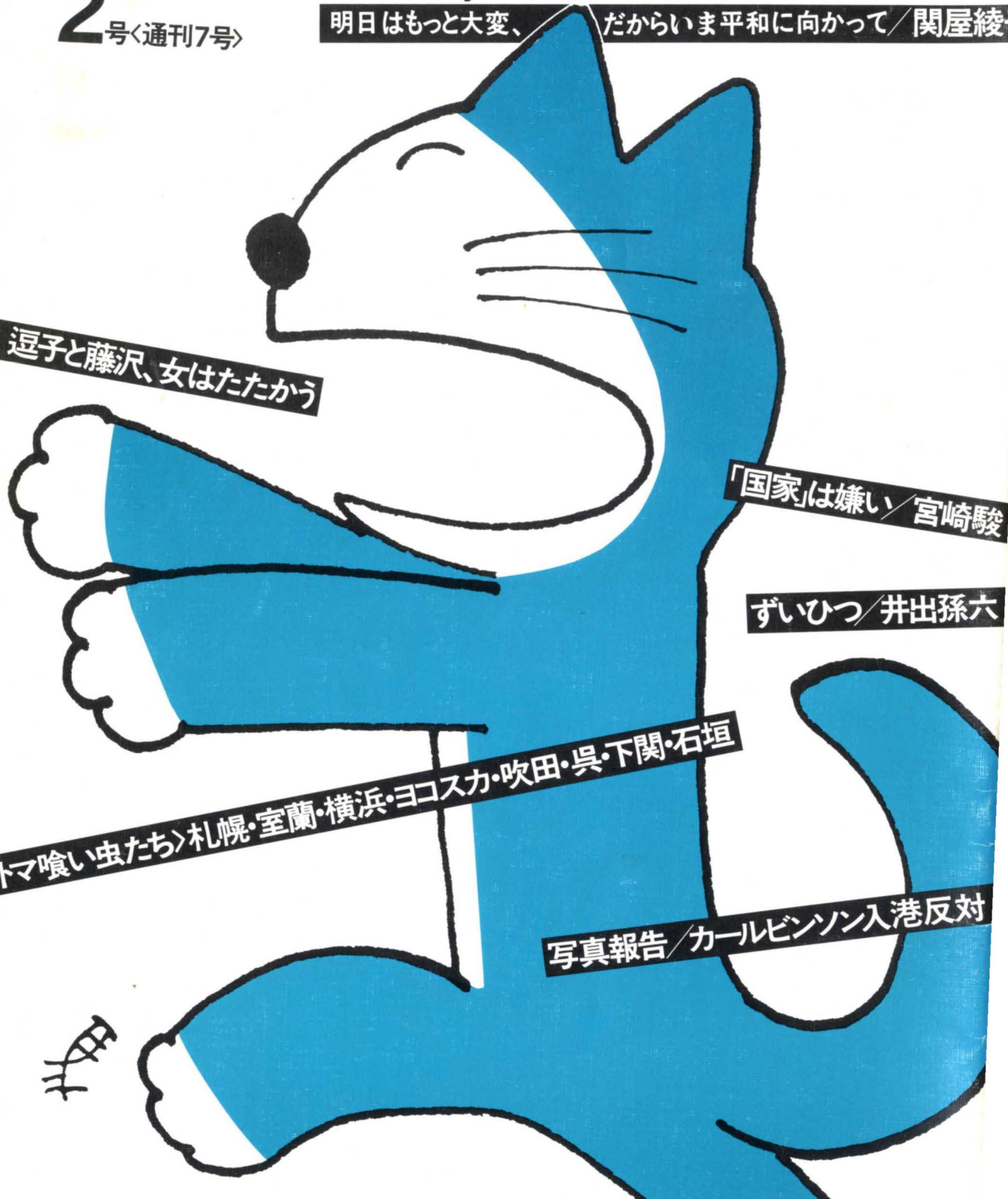


トマ喰い虫

2号<通刊7号>

明日はもっと大変、だからいま平和に向かって／関屋綾



逗子と藤沢、女はたたかう

「国家」は嫌い／宮崎駿

ずいひつ／井出孫六

トマ喰い虫たち>札幌・室蘭・横浜・ヨコスカ・吹田・呉・下関・石垣

写真報告／カールビンソン入港反対



トマ喰い虫 改装2号(通刊7号) '85/2/10

写真報告 ● カールビンソン入港抗議 1

トマ喰い虫インタビュー

関屋綾子 2

地域から 4

北海道/東京/神奈川/ヨコスカ/大阪/
下関/呉

「政治をひとまかせにしない」
逗子と藤沢・女はたたかう

対談 ● 柳谷あき子 + 鈴木道子 10

私の主張

自衛隊PR広告阻止闘争 ● 北海道新聞労組 14

非核都市宣言のための室蘭市民連合のたたかい 15

民衆の「新次元」を ● 吹田日韓問題を考える会 16

トマホークデータ 8

今日の安保 20

チームスピリット演習のQ&A 21

第4回反トマ全国会議報告 17

もの申す! 新しいものもいつかは
古くなっていく ● 角倉生 18

改装1号を読んで ● 和田浩, 萩原弘子 19

メディアの中から 宮崎駿 22

ずいひつ 井出孫六 25

石垣島の海が殺される! 仲村 馨 26

海外から ● ニューカレドニア, 韓国, クワジリン 27

表紙デザイン ● 平野甲賀 イラスト ● 馬場のぼる

トマホークとは

トマホークは、いまアメリカが日本を含むアジア・太平洋地域に配備しようとしている巡航ミサイルです。核弾頭をもったトマホークは広島型原爆の15倍の威力をもち2500キロメートルも飛びます。目標付近の地図を記憶したコンピューターを搭載し、極めて高い命中精度を有します。超低空で飛行するため、敵側のレーダーを逃れ、限定核戦争の第一撃をねらった兵器とされています。



小さな声、大きな声かひとつに(12.8)

12月10日、陸海での抗議のなか、核空母カールビンソンが横須賀に入港



▲入港反対の紙をもって岸壁に立つアメリカ女性
横須賀市長、市議会議員も、歓迎行事を欠席▼



カールビンソン 入港抗議

1984・12・3~14
ヨコスカ

●カールビンソンが入港した。抵抗が大きく入港を断念してきた、とされていた首都圏の港、ヨコスカに。大きいはずの抵抗はどうだったか、と問いたいのが、やめよう。ないものねだりははずかしい。●だからこの際、足りないものは創り出せばいい、とおおらかに言っています。で、そうした目で12月の10日間を見ると、大切にしたい小さなエピソードはたくさん。●倍にふくれ上がった10日のデモ。中高生の飛び入り。最終日まで参加者がふえつづけた毎日デモ。私たちも反対と声を上げた。草の根一人の人々。



明日は今日より、もっと たいへんかもしれない

インタビュー
ニギハヤヒ

私は東京YWCAの会長や全国会長をしていたんですけれど、今は現場に舞い戻って、毎日忙しいですね。いろいろと自分の仕事も手詰まりで、思うこともなかなかできなくて困っています。

でもそう思っている私も、明日はもっと今より大変かも知れない、思うことにしているんです。自分の仕事にしろ、世の中の状況にしろ。だからやっぱり、たいへんだって言う中で、座り込んでしまわないで、もう一歩明日のために今日準備しておこうという気持ちです。

たとえば、流しの上はいっぱいで、ただ他の仕事もあるという実状で、あぁいいや明日、あぁいいや後で、と言わないで、自分と闘いながら一枚でも二枚でも洗う。それで自分が前進していくんです。

す。つまらないことでもその集積です。我々が生きていくということとは。

明日に向かって、明日はもっと大変かも知れないので、ここにたくさん仕事を残しておいたら、私は負けますよ。今日できることは今

自分の食べ物によって 兄弟を裁いてはいけない

平和・反核という立場に熱心であればあるほど譲らないでしょう。平和を追求していたはずなのに、いつの間にか仲間同士の批判というふうなことがある。これは人間としていたしかたないことだと思います。熱心になればなるほど、自分と同じ姿勢で歩かない人を糾弾したくなっちゃうのね。

日やる。自分との闘いの中で極限までやり抜く。

それは明日っていうか、私より「大きなもの」を感じるからです。そういうことに對して、できる限り、最大最善に生きるということだと思います。

私も含めて人間は「こうしよう」という気持ちが強くなると、そのように歩かない人は許せないんですよ。ですから、それは人間の習性だと思っんです。そこでやっぱりゆとりを持って、というか、こんなふうな（とゲンコツとゲンコツをぶつける仕種）向き合わないで、やっていけば、私達日本人

はもっと伸びるんじゃないかと思うんです。それを、考え方というか、人間の深さというようなもので、越えられるのではないかと思います。

聖書の中に「ローマ人への手紙」というのがあります。その中の14章が非常に好きな所なんです。私が生きていく上で、そのことを考えるの中心にしているんです。

それは「自分の食べ物によって、兄弟を裁いてはいけない」ということです。私は丈夫だから何でも食べられるという、その何でもというのが、たとえば肉とか何とか、本当に物理的に硬い物という意味と、思想的な意味があります。硬い物を食べる人は、柔らかい物しか食べられない人を裁いてはいけない、と書いてあるんです。たとえば真理ということがある

言葉として知る だけでは脆い

とします。そこへこの道から行くこととする人と、別の道から行くこととする人がいる。そのことの違いを誹謗してはいけないということだと思います。

唯一の被爆国日本という言葉でいい表わすことができると思っていた時代がありましたね。日本は核兵器の攻撃的になった唯一の国だ、ということではできると思っています。しかし、一般的にきちんと整理されていないような気がするんです。「唯一の」というのは非常に漠とした表現で、言いたい気持ちは分かりますよ。だから、被爆ということに対する知識を深め、もっと正確でなくてはいけないと思います。

今、トマホークのことがでているんですが、どの説明も広島は何倍、といっていますね。それゆえに、広島の実態はどうであったかを知らない限り、知る必要があると思います。ただ言葉として蔓延している、非常に脆いものだと思います。広島ということを知識だけ



関屋綾子

せきや・あやこ 一九一五年
東京に生まれる。現在、日本
YWCA常任委員。第二回
国連軍縮特別総会NGO（非
政府組織）宗教代表団団長。
著書・岩波ブックレットNo.5
「女たちは核兵器をゆるさな
い」他。

でなく、その中に見えない感動とか、人間の実感とかを、自分の心の中で感性というものにかえて、事実をとらえ返し、言葉や知識とすることが大切だと思います。私はその場になかったけれど

いつ実現するかわからない しかし希望と情熱をもつて

戦前は皆そうだったと思います。が、へんだなあと思っていながら黙ってそのまま進んでしまった。ノーと言うべき時に言わないのは、黙認と同じです。誰かがやった戦争でひどいめにあった、というこ

も、今を生きる共通の責任という意味で、知らなければいけないと思うんです。そういう人間としてのふれあいを運動の根底にしていかなければ、本当に身につかないんじゃないかと思っています。とではないのではないかと思えます。だからこそ、言うべき時にノーを発しなければならぬのです。国全体がトンネル時代という時期もありましたが、時代を切り開く

地域から

北海道
2月、厳寒の
富良野で集会

グリーンベレー、ニセコで雪中訓練。例年雪どけまでは冬眠をきめこむ私たちではあるが、正月早々の初仕事となった。1月11日、アメリカ領事館への抗議行動。昨年「自衛隊広告反対」にとりくんだ仲間を中心に12名が参加。竹村議員も同行したせいか、代表5名が約20分間にわたり面会。うわさでは社会党議員に対してはソフトムードでせまっているようだ。2月17日には厳寒の富良野へ集会。ピラマキに行く予定。

反核反原発全道住民会議（大島）

東京
ブルトニウムが
帰ってきた！

フランスから日本へと海上輸送されてきた約二五〇kgのブルトニウムが、十一月十五日早朝、東京港でトレーラーに積みかえられ、茨城県東海村の動力炉・核燃料開発事業団に運ばれた。これに対し、東京湾周辺の反原発・反開発市民グループは、輸送船の入港間際に

ようやく得られた情報で数十名が東京港に駆けつけて、警察官の厚い壁に阻まれながらも抗議の声を上げた。その後さらに約百名が加わり、海上デモと陸上での抗議集会を行なった。

プルトニウム研究会 西尾漢

東京
アトミックカフェ
リラ、応答せよ

アトミック・カフェという映画の上映運動をきっかけに始まった、ぼくたちの反核コンサートは、今年3月に再度映画上映を、5月にはミニ・コンサートを企画するつもりだ。そして、8月には1万人規模のイベントを考えている。このイベントを、コンサートだけでなくいろいろな人達が楽しみ、考えていくための企画とするため、ぼくたちと共に、アトミック・カフェに参加してくれる、グループ、団体、個人の方を求めているので是非連絡下さい。できれば、東京だけでなく、各地にアトミック・カフェ・ゲリラが発生するのを望みます。アトミック・カフェ・フェス実行委員会

大阪
「二〇〇番目のサル」
が絵本になりました

「私たちひとりひとりが、核兵器は必要でないという自覚をひとりひとりの心の中で、深く深くしていくことです。自覚を深めましょう。しかし、核兵器は必要でないというあなたの自覚を、ムリに友人に押しつけようとしたら、対



立したりする必要はまったくありません。たとえそれが、正しいものであり、善意から出たことであっても、そうしたムリじいや、それによって生じた対立の延長線上に、今の核兵器があるのです」(100番目のサル原作より) 絵本の申し込みは大阪府吹田市千里山西3の45の12千里順風荘マンション302 北村弓

鳥取
反トマ、今は
足踏み状態

六月トマホーク配備を何としてやめさせなければと、被爆者も加わって「戦争はいやだ市民の集い」を開いたのが昨年十一月。以後、集會名が組織名になり、市議会への陳情、マラソン署名、市内パレード等諸行動を重ねてきた。パレードの度に通行人からカンパが寄せられるなど、他のどのようなデモでも経験しなかったような市民の反応を得た。しかし、八月六日に「被爆者と語る集い」を開き、反トマホークの継続的取り組みを確認したものの、今は足踏み状態。二月十一日には何かをやるかと検討中である。米子市政研究会 0859・33・6475

神奈川
地域から
平和を作る

84年春から夏、神奈川を「反核」が駆け抜けた。市民の非政治化過程の進行が言われるなかで、それは生活者の側からの、政治を取り戻す運動であった。国家・国民レ

東京
トマ・トーク
売り上げ76万円



平和セリ市「トマ・トーク」を12月8日、日本が太平洋戦争を起こした日に新宿のシアターアプルで開催しました。当日は夜10時からにもかかわらず約二〇〇人が参加。これは今春3月に全国紙を使い反トマホークの意見広告を出す運動にはずみをつけ、またそのための資金を集めるために行われたもの。中山千夏、矢崎泰久さんの司会、小田実、色川大吉さんらが反トマホークを語り、中国のシルクロードの大切な持ち帰りものなどをオークションにかけました。せり師は日市連の藤本義一さんと永六輔さん、二人の名調子にのって松本清張さん、丸木位里・俊さんら約五〇人の方々が寄せられた物がせりにかけられました。バザーも同時開催され、にぎわいを増しました。売り上げは約七六万円。収益は意見広告費にあてさせていただきます。出品された方、参加された方ありがとうございました。より大きな意見広告を出すために、さらなる参加をお願いします。口座番号 東京2・135242 名称「意見広告の会」

わたしたちも
カールビンソンの
入港に反対します

私たちの町を核基地にするな、春から集めている市民の反トマホーク署名も11月末には6万4千人を超えました。非核三原則のなしくずしを心配するにとどまらず、核がすでに私たちの町をどまどまどと侵襲している不安がこの数になったのだと思います。彼らにはまだわからないのでしょうか。私たちが決して核に慣れてしまわないことを。反トマホークならすべての核に反対！

反トマホーク草の根署名運動

大滝町1-25 大倉法律事務所内 TEL0468(22)0287

84年12月11日付『神奈川新聞』

横須賀
核疑惑艦船をとめ
る？訴訟起こる

カールビンソン入港直前の12月9日、横須賀港への「核疑惑艦船」入港の差し止めを求める行政訴訟が東京地裁民事部に起された。前号で飛鳥田さんが話されていた、トマホークをとめるための訴訟の具体化だ。原告は市内に住む本多七郎さん(62)。弁護団長はもちろ

地域から

ん飛鳥田一雄さん。「非核三原則」を国是とするなら、核搭載の有無を日本側から確かめる方式を講ずべきで、そのことが実現しない以上、国はすべての疑惑艦の入港を拒否すべきというのが趣旨。本多さんは「反トマ草の根署名」の呼びかけ人のひとり。「草の根署名」は入港当日右のような意見広告も出した。訴状希望の方は、本町3の14、ヨコスカ市民グループまで。

地域から

関 下 米軍基地のない町で 安保が見えた

83年708台。84年4台。関釜フェリーにより輸送された米軍車で、確認された数だ。なぜ昨年減少したかはさだかではない。私たちがさわいだいせいかもしれない(冗談)。米軍基地のない町で安保が見えた。この問題を通じての何よりの実感だ。見えた以上は数量に関係なくそれにコダワル。長年の地域運動のよしみで、あちらこちらとのつながりを生かして、本州のすみこの町で、私たちもがんばっているよ。今日も潮風にふかれてのフェリー監視です。

関釜フェリーの軍事利用に反対する会

川 崎 たくさんいたいた 年賀状の中から

賀正。日本はアメリカの植民地なのか、それとも属国か。政・財・官がグルになってお先棒をかつぎ、人が人を殺す以外必要のない武器を作り、その武装をふかめ、口にはきれいごとを既成事実として作

造し、植民地化をつくりあげつつある。その結果はどうなる。武器も原爆とかわり、日本という出店は崩壊し、死屍累々と化し、そのときアメリカは放棄し、本国へ帰る。ようするにすべての植民地の運命だ。でももうかるから、これでもいいとでもいうのか、正義と自由と平和を求める友よ。長谷川武



東 京 第2次署名提出 計65391名

84年12月17日、「トマホークの配備を許すな/全国運動」の代表3人が、首相官邸を訪れ、トマホークの配備に反対する署名45353名分(第2次集約)を提出するとともに、中曽根首相に対し、杉田官房長官秘書官を通じて、カ

ールビンソンの入港に抗議し、①トマホーク搭載予定艦船の入港拒否②核疑惑艦船・航空機などへの核チェックを強く要請した。これで、これまでに提出された署名の総数は65391名となった。

トマホークの配備を許すな/全国運動・事務局

呉 私たちの側も 運動した動きを

12月8日・9日、岡山行動が企画した、岩国・呉基地ツアーに同行した。広島湾周辺に、陸海空三軍の米日双方の軍事施設が網の目のように私達をとりまいてるのを目の当りにして、軍港呉という捉え方だけでは徹底的に立ち遅れてしまうことを痛感した。呉をも含め、これら軍事基地の網の目総体を問う視点と実践が要請されている。「全国運動」の一つの柱に反基地闘争があがっているが、私たちもチームスピリットを契機に岩国・広島・呉での、私たちの側の運動した動きをつくっていきたい。トマホークの配備を許すな/呉市民の会

東 京 ピースバスに のらないか

首都圏の基地を訪ね安保を知るツアーが二日間にわたって行なわれる。コースは、千葉・下総基地を皮きりにフェリーを利用して、横須賀・池子・上瀬谷・座間・厚木・相模原・横田とまわる。日時は三月九日(土)十日(日)、参加費九千円(一泊二食・バス代込み)。三月九日午前十時半、東京駅八重洲口ヤンマービル前集合、十一時出発。講師は軍事評論家の前田哲男さん。参加希望者は、トマ喰い虫社内、ピースバスプロジェクト(03-8131-1953)へ。



横須賀 カールビンソン 入港反対毎日デモ

4日(火) 時間前に集まったのは10人足らず。KAさんが、これから十日間みんなで作っていくデモにしようとして第一声。それぞれの思いがたくさん表現でさればいいなと思いつきながら聞く。解散地では21人倍になった毎日デモのスタート。5日(水) 13人だったけれど「来るなカールビンソン」のシュプレヒコールに冬の寒さもふきとんだとOさん。

6日(木) 冷たい雨。Aさんは友人がマフラーを貸してくれたと暖かそう。TAさんは長靴にゴアテックスと用意がいい。おくれに届いたビラをまくのに誰も傘をささず。そんな熱い思いが伝わるのかビラの受取りはいい。デモは16人。7日(金) KUさんが丸いプラカードを持って初参加。大きな声で米兵に呼びかける。寒さは昨日以上。銀行の電光温度計は7度C。ふるえながらの参加19人。8日(土) 首都圏運動呼びかけの緊急行動に合流。機動隊の乱暴な

規制におどろいた女性マイクをとり、涙声で訴え。「カールビンソンの入港に反対するためにここにいます。機動隊は何のためにいるのですか。次から次へとマイクを握る人、街ゆく人の心に届けと訴え。参加者全体で400人。9日(日) 「護憲反安保」主催の万人集會に合流。毎日デモの横断幕は子供達。のびのびと歩く200人。それにしても革新政党のとくくみの後退は何なんだろう。長崎放送の記者が、こんなにسنナリと首都圏に入港するなんて信じられないと電話の向うで重たくつぶやいた。

10日(月) 反対の声を押しつぶし一時間も早く港口に巨体をあらわしたカールビンソン。抗議船に乗った仲間達と合流して昼間のデモ。150人でスタートしたデモは300人にふくれた。中学生や高校生、なんとカールビンソンの乗組員の飛び入りも。マイクを握った中学生小さな声で「戦争ハンタイ」。「やっとデモに出ました。ここにやることのできない多くの人の気持ちも皆さんといっしょです」と私たちをほげます主婦。夕方から

の毎日デモは40人。KOさんが二度目の入港は許さないとさけぶ。

11日(火) 雨。勤労会館にはすでに15人ぐらいの人。あわててプラカードの追加を取りに走るYさんとSUさん。川崎のバス運転手さん4人で参加。組合の動員はないのですが参加しますとあいさつ。すっかりぬれて解散地。参加者は30人。今日集まればホンモノだなといった横須賀署も、30人になるとは思わなかっただろう。

12日(水) カールビンソン出港。市民団体が監視のみとNHK。監視はHさんとSさん。入れかわりにミッドウェイの入港。抗議デモは毎日デモのみ。今日からはじめて参加しましたという人がいる。今日は同僚をさそってきました。明日は生徒をさそってきますと県工のS先生。年に一度夫婦でメサイヤを聞きに行く日でしたが、本当のメサイヤはこの中にあると思って、と、はるばる国立からかけつけたSAさん。「この街から飛ばすな」をうたって解散。33人。

13日(木) 最終日。今日もまた参加者がふえている。出発時にすでに30人。新聞で知り、初めて参加



したという若い男性は「普段の生活のコトバに近いデモで親しみを感した」。若い女性は「2回目です。来るたびに感動して、今日は涙が出ました」。10日間たくさんの方がマイクを持った。うたも出た。シメは市職労の仲間の音頭で団結ガンパロー。参加者41人。最後まで参加者がふえつつあったデモだった。

革新政党のとくくみはハッキリと後退した。入港時の陸のデモはなかった。出港時にはなにもなかった。何かが変わったと思わないわけにいかない。では、「私たち」はどうだったのか。カールビンソンの残したものは大きい。

TOMAHAWK DATA

浮かびあがった核トマホーク搭載の 潜水艦名

ボストン、バルチモア、アトランタ、ヒューストン

最新刊『ジェーン海軍年鑑84-85』の潜水艦(SSNおよびSS)(注:SSNは攻撃型原子力潜水艦の略)の項目に次のような一文がある。

「ミサイル:トマホーク・ミサイルがSSN703(ボストン)、704(バルチモア)、712(アトランタ)、713(ヒューストン)に装備されている。SSN688-720は、魚雷の一部として12基のトマホークを搭載するだろう。SSN721以降には、内側船殻と外側船殻の間にある船首部分に、垂直型発射台15筒が装備され、各艦とも15基のミサイル能力を有する予定である」

ここに名前のあげられた4隻の原潜のうち、SSN713(ヒューストン)のみ太平洋艦隊所属であり、他は大西洋艦隊所属となっている。

よく知られているように、米国防総省は、1984年6月27日、核巡航

ミサイル・トマホークを複数艦船に配備したと公式に発表した。しかし、配備艦船名は明らかにせず、のちに、4隻の攻撃型原潜にまず配備されたことのみ明らかにした。

ジェーン年鑑の4隻が、この4隻にあたるものと推定される。

本誌前号のこの欄に紹介した米議会でのホステットラー証言('84.3.14)に明らかのように、艦船搭載のトマホークには、対艦攻撃用(TASM、非核)、対地攻撃用通常型(TLAM/C)、対地攻撃用核型(TLAM/N)の三種類がある。ジェーン年鑑の4隻は、単にトマホーク装備と書かれていて、この三種類のいずれであるかは明記されていない。しかし、ホステットラー証言に「TASMは現在、潜水艦に全面的に作戦配備されており…」、「対艦用TASMは試験を完了し、1983年11月をもって大西洋及び太平洋艦隊

の潜水艦に配備されました」など、繰り返しのべられているように4隻のトマホークはTASMではない。

また、TLAM/Cは、その有効性が疑問視されており、有効であるために必要な精度を開発中である。ホステットラー証言でも、「TLAM/Cは、まだ開発中であります」、「TLAM/Cの生産予算は、垂直急降下攻撃の概念が立証されるまでは使用されないでしょう」などと、これも繰り返し述べられている。戦艦ニュージャージーに搭載されたTLAM/Cは初期艦隊能力の立証のためである。(むしろ、現在はTLAM/Nがのっているだろう)。従って『ジェーン年鑑84-85』に書かれている4隻のトマホークは通常型ではない。

以上のように、ボストン、バルチモア、アトランタ、ヒューストンの4隻が、最初に核トマホークを載せた4隻であることが、相当な確度で推定しうる。もちろん、その後も配備艦は増えており、これらがすべてではない。その点については次項参照。

のあとに、現時点における解説を加える。

* * *
対地攻撃用トマホーク
質問 対地攻撃用核トマホーク(TLAM/N)の現行の配備計画は、数量および発射装置の型式に関してどのようなになっているか。
回答 現在の計画は、758基の対地攻撃用核トマホーク(TLAM/N)を得ることにある。配備計画は次表の通り。海軍の計画では、次のようなTLAM/N装備可能な発射装置を持つことになっている。

米下院歳出委・軍事小委員会に回答した 国防総省のトマホーク配備計画('84・7・8公表)と、 その読み方

1984年7月8日にワシントンで公表された米下院歳出委員会・軍事小委員会にあてた国防総省の回答書のトマホーク配備計画の部分以下に訳す。この回答書は、3月に行なわれた1985年度国防予算についての公聴会の際にディスク議員(民主党)

が出した質問に対して後日出されたものである。ディスク議員の質問には、W・アーキン氏からの強い働きかけがあった。

この回答書の内容は、日本の新聞にも報道されたが、その解釈をめぐって少なからぬ混乱があった。訳文

TOMAHAWK DATA

	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	年
戦艦(ABL 8台)	1	2	2	3	3	3	4	4	4	4	
駆逐艦(ABL 2台)	1	2	4	7	7	7	7	7	7	7	
駆逐艦(VLS)	2	4	12	15	20	21	
誘導ミサイル巡洋艦 38型	2	2	4	4	4	4	4	4	
誘導ミサイル巡洋艦(VLS)	1	3	7	10	11	14	17	
誘導ミサイル巡洋艦 36型、39型	1	1	3	3	3	3	3	3	
誘導ミサイル駆逐艦 51型	1	1	4	9	
スタージョン級攻撃型原潜	1	7	11	19	25	33	34	39	
ロサンゼルス級攻撃型原潜	6	12	16	21	25	26	28	31	31	31	
ロサンゼルス級攻撃型原潜(VLS)	1	4	6	10	13	13	13	13	
計	8	16	27	46	64	83	107	122	134	148	隻

ABL:装甲箱型発射台 VLS:垂直発射装置

* * *
上表の数字は累積隻数である。
現時点で、この回答を読んでいるとき、上表の計画は、あくまでも、当初立てられた10ヶ年計画表でありこの通り実行されたものではないと思われる。1984年になって米議会でも繰り返し「6月配備」と説明され(2月1日の85会計年度軍事情勢報告、3月14日の米下院軍備委員会調達・核兵器小委員会におけるホステットラー証言などすべてがそうである)、その上6月27日に配備が公式発表されたことなど、すべてがウソであるとは考えにくい。計画は明らかに表よりも遅滞したのである。

しかし、3月のホステットラー証言の他の部分で「1984会計年度末までには、12隻のトマホーク能力をもった攻撃型原潜が海に出ていることになるでしょう」と述べていることに注意する必要がある。これは、84年9月末までには、遅れをとり戻して、上表に記された計画に追いつく可能性を示したものである。PCRC(太平洋問題資料センター)のN・フォスターも同じ推測に達している。

その場合、84年9月末日までの核トマホークの搭載艦名を諸情報を総合して推定すると次のようになる。
戦艦(2隻) ほぼ確実にニュージャージーとアイオワ
駆逐艦(2隻) 不確実ながら1隻はメルル。他は不明。
攻撃型原潜(12隻) 高い確度で前記4隻。他の8隻は不確実ながらラホヤ、サンフランシスコ(以上、太平洋艦隊)、フェニックス、ノーフォーク、バッファロー、ソルトレークシター(以上、大西洋艦隊)、オリンピック、ホノルル(以上、未配属)。

3日に1日は トマホーク予定艦

1984年の1年間に横須賀に入港した米海軍の原子力潜水艦数は、延べ23隻になった。これは史上最高を記録した昨年とタイ記録である。これらの延べ滞在日数は170日であり、ほぼ2日に1日は横須賀に原潜が入港していたことになる。

このうち、トマホーク搭載予定艦に限ってみると、艦数は延べ16隻、

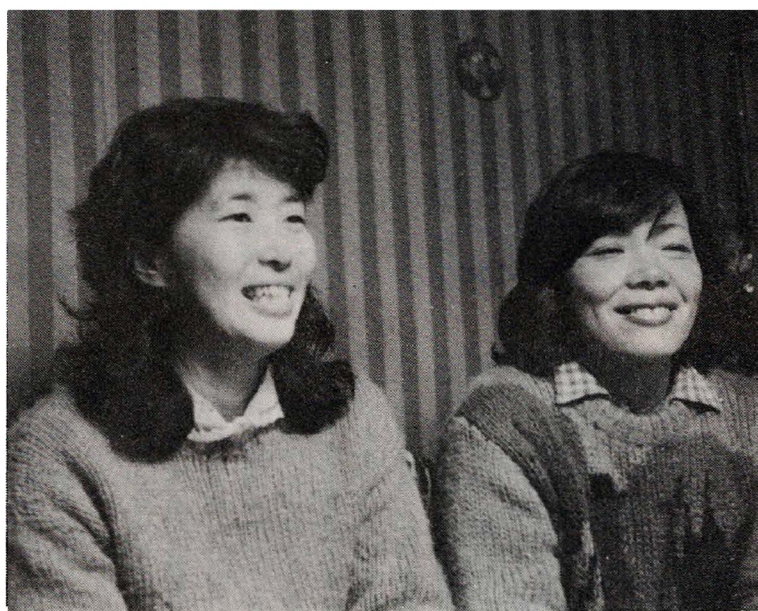
滞在日数は延べ116日になる。昨年の93日に比較して23日の増加となり、ほぼ3日に1日は横須賀にトマホークが存在する勘定になる。

新しい文献

- 核兵器ノートー緑の地球、その未来のために(前田哲男他編、神奈川県渉外部発行、1984年10月20日、小冊子)
- 日本の軍事化十大事件(山川暁夫「本格的な国軍化に向かう自衛隊」、梅林宏道「非核三原則とトマホーク事件」など、「思想の科学」、1984年12月号)
- 核臨戦体制を支える電波網-C³Iと日米安保(グループ波編、「労働情報」No.179、1984年12月15日、図解)
- 核に減ぶか?(高木仁三郎、前田哲男著、径書房、1984年12月10日、980円、対談)
- 月刊非核自治体通信・創刊準備号(法大・西田勝研究室編集発行、1984.12.24.100円)

政治をひとまかせにしない 逗子と藤沢、女はたたかう

柳谷あき子（やなぎやあきこ）
1945年生まれ。藤沢市議会議員。



鈴木道子（すずきみちこ）
1945年生まれ。生活クラブ生協逗子支部。
池子米軍住宅建設に反対して自然と緑を守る会会員。

ギーがあつて、それについて来れない人はダメだとか、ここまでわからなくちゃダメなんだとか言っていると、どんどん反対側の力が強くなってしまうと思うのね。

今、女の運動とか草の根運動がもてはやされている感があるけれど、ただその中で私がこわいナーと思うのは、市民の自治とか個の尊重というのはそれ自体いいことなんだけれど、それが「自分だけがよければいい」というエゴになつてぶつかり合ってしまったらど

うなるか。へたすると戦いがおきるわけよね。食べものにしたら自分だけ安全なものを食べられればいいという人がすごく多い。平和にしても、自分たちだけが平和であればいいというものではないということも言っていないかと思ふ。逗子の運動でも気をつけなければならぬのはそこだと思うのよ。

「私は自然保護がいい」「水や緑が大切だ」それはよくわかるけど、じゃなせ米軍住宅が建てられようとしているのか、なぜ基地があるのか、それがために日本が他の国に

対し何をやってるのかと、そこまで考えていかないとへんな平和、へんな民主主義になってしまうかわさがあると思う。つまり「米軍住宅イヤです」ということが「どこか別の所へ建てて下さい、横須賀へもって下さい、三宅島へでも……」となってしまうたらまずいわけよね。そこをくすすには、やっぱり「安保があるからだ」「安保なんかいらぬ、必要ない」と小さな市民運動、住民運動でもどんどん言っていかなければいけないと思うのね。



今回の逗子の運動の場合「安保反対」ということは前面に掲げられませんでしたね。確かに「反安保・反基地」という言葉にアレルギーを示す市民が多い。そもそも「安保」の中味もはっきり捉えられないまま、言葉だけがころがされているという感もしますよね。「反安保」ということがある人には幻想のようにあったり、過激派のイメージのようにあったり、「反安保」と言えば落ちつく人もいれば、毛嫌う人もいます。ト

藤沢 柳谷あき子 逗子 鈴木道子

池子弾薬庫内に米軍住宅を建設したいという申し入れが82年8月に防衛施設庁からあつて以来、その是非をめぐって、市長の「寝返り」、リコール署名、市長辞職、そして選挙と、自然保護から出発した池子の運動は、反基地・反戦の闘いとして大きな注目を浴びました。市長選では「自然と子供を守る会」推せんの富野暉一郎さんが当選し、「米軍住宅反対」の市民の声が勝利した。しかもその運動の母体になったのが主婦を中心とした女たちだったということも話題になりました。

鈴木 最初はみんな、ただ単純に緑を守りたいという気持ちで動き出したのが、「緑だけじゃダメなんだ、住民自治なんだ」と進んでいった。つまり池子の運動というのは、今まで政治の問題を市長なり中曽根さんなり他人にあずけて任

せておけばいいと思っていたのを、それじゃダメなんだ、自分たちがやらなきゃいけないと女たちが思い始めたことの現れだったと思うの。逗子という街は東京や横浜のベッドタウンで、市民の殆どが外から引っ越して来た人なのね。生活水準もある程度高くて、多少税金は高くてもきれいな空気とマイホームがありさえすればいいという、政治的にも無関心の人が多かった。そこに街全体に関わる問題が起きて、それをめぐって市長の美味が暴かれていって、自分たちの市長はこんなものじゃないか、と市民が気づいたわけね。

女が中心になったというのは、女の方が男の人より日常生活の中にいて、管理社会の中で縛られている彼らより、今の世の中をおかしいと感じて、またそれを語りやすかったからだと思うのね。女たちが日常生活の中から日常的な言

葉で語っていったから広がっていったんだと思う。

今回の場合、「守る会」はあくまで米軍住宅建設反対という一点のみの活動の場とし、自然を守るためとか、子供への悪影響の心配とか、基地強化への不安とか、それぞれの動機はどこからでも関わられるように運動がつくられていったのね。それぞれが自分の言葉で語り合い、いきなり激論に入らずに、意見が違ふからといって排除しない。上から言われたからとかではなくて、個人個人が自分の意志で、自分にできることは何かと問いながら、できるところで関わっていく、というのが逗子の運動の特徴だったと思う。

柳谷 これからは逗子のような運動をやらなくとも広がっていくということがあるわね。たとえば今までの政党主導型の運動みたいに、最初にある思想とかイデオロ

マホーム配備阻止ということにしても、安保があってアメリカが日本に配備するものだから、当然「反安保」に行きつくわけだ。運動の場でストリートに語られにくい面がある。これからの運動を考えていく場合、この「反安保」ということに、どう取り組んでいったらよいのか……。

鈴木 逗子の場合でも、安保だけでついでにける人と、自然だけじゃないとついでにいけない人と、いろいろいるんです。もちろん自然保護の立場からのみの運動の進め方に疑問を感じている人もいました。ただ今回は人口五万八千の中で全市民的な動きにしなければいけないということから、あえて安保のところではなく、みんなが関われる「自然と緑を守る」という共通の一点で進めたのね。

柳谷 私は今回の逗子の闘いを見て「あっ自然だけでもやれるんだな」という気はしたけれど、そもそも「自然を守って米軍住宅を建てさせない」ということがすでにイコール反安保の行動なのに、それを言えないというのは大変だなーと思った。藤沢の場合、市政レベルでも、いろんな運動の場でも、女たちがもっとストリートに「戦争への道を許さない」と言い、反戦・反核・反安保を語っているのね。トマホークにしても原潜にしても安保があるから来るわけでしょう。戦争への道を進む今の状況の裏に安保があって、政府自民党が何故それにこだわるのか、何故軍事費ばかりが突出するのか、そういうことを女たちがもっと運動の中で考え、語っていかないといけないと思うのね。

安保によって何が守られていると
いうのか、安保があるとはどうい
う状態のことなのかを、その人と
一緒に考えていくことが必要ね



鈴木 ただそこで「安保があるから全てダメなんだ」と簡単に言い切っておしまい、というんじゃない、安保が是か否かという一歩手前でちょっと考えてみる必要があると思うの。私もよく人に「安

保がなくて日本が守られるの」とか「日本が守られているのは安保があるからじゃない」と言われたりするんだけど、そういう時に「そうじゃないと思うわ」と、安保によって一体何が守られているというのか、安保があるとはどういう状態のことなのか、を自分もその人と一緒に考えていくことが必要だと思うのね。

お隣とのつき合いでも、もし向こうが攻めてきたら困るからと垣根を高くすれば、向こうだってきつと高くするでしょ。それよりも「お隣はどんな人かしら」とちょっとご挨拶に行つて話してみる。「じゃ、こっちは人はどんな人かしら……」という風にしていけば、「あら垣根なんか作る必要ないじゃない」となると思うのね。単純かもしれないけど国と国との関係だって同じじゃないかしら。安保だ防衛だと動く前に、相手が本当はどんなことを考えているのかと

いうことを、もっと知っていく必要があると思うのね。



のか、つまり自分ひとりでは生きられないんだという考えをみんなが大切にできるようにすれば、あえて「反トマホーク」「反安保」と言わなくても自然に自分の問題として考えていけるようになるはずだと思っただけだね。

逗子に関して言えば、今まで一人ひとり分断されて生活してて、自分さえよければという人が多かった中、今回の運動を通じて隣同士で話をすることもなかった所に對話がおきたりして、住民同士が隣近所で有機的につながるようになってきたのね。これを強めていかなければいけないと思うわね。

柳谷 私たち今までPTAとか社会教育とかいろんなことはやるけれど、政治はイヤという女たちばかりだったわよね。でもそう言っているうちに、気がついていたらいつの間にか全然関係ない上の方で政治が動いていて、遠くへ行っちゃったという状況でしょ。それをひきずりおろしていくには、女とかが政治のプロでなかった人たちが政治に関わっていくような運動をつくりあげていくこと。つまり「政治は身近なんだ、消費者問題やPTAと同じだよ」ともって

気楽に語られていかなきゃいけないと思うのね。

鈴木 水の問題にしても石けんのことにしても昔に比べればずい分変わってきたでしょ。確かに時間はかかったけれど運動が広がってきた。それは仲間がふえてきたからなのよね。誰かひとりが頑張るというんじゃない。身近な問題を政治や経済の問題とつなげて掘り下げながら考えていく仲間を少しずつ増やしていく。ワッとと派手に広がるんじゃない、地道に気長に進めていく運動がこれからは大切だと思う。

柳谷 ただ池子なら「米軍住宅反対」、横須賀なら「カールビンソン寄港反対」という具合に、すぐにそばに直接的な問題があるけれど、それが無い場所では反戦平和につながる運動をつくりあげていくか、それは大変なことだと思う。私は議会が最終目標だとは言わなければ、議会制民主主義の中で



の具体的なひとつの運動として、議会を変えていく、国会を変えていく、つまり議会を自分たちのものにしていくという大衆的な運動は絶対必要だと思う。自分が議員だから言うんじゃないけど、「議会なんて」とか「選挙なんて」とバカにしてシラけてられないと思うのね。

逗子にしてもこれから勝負よね。少数与党だし、「なんだ、結局何にもできないじゃない」ということにならないよう、市民が市長を支えていかなきゃね。たとえばしつこく議会を傍聴するとか、いろいろ工夫しながら……。

鈴木 確かにこれから先が大変だし難しいと思う。実際これまでだ

PTAとかいろんなことはやるけど、政治はいやという女たちばかりだったわよね。でもそう言っているうちにいつの間にか……

って思ってもみなかったことが次々起こってきたのね。初めはリコールが成立するとも思ってもいなかったし、まさか市長選で勝てるとも思っていなかった。ひとつ越えれば越えたで、どんどん次のハードルが高くなるというのが正直な気持ちね。

でも数年前までは自分の街のことにも目を向けず「日本の政治は変わりっこない、ダメなんだ」と思ってた人たちが、こうやって自分の足元をみて自分の街のことを考えるようになってきた。今回の問題が始まる前の状態からすれば市民全体がずっと成長したと思う。もう絶対もとは戻らないという自信をみんな持っていると思うのね。たとえば夫婦間で考えがちがってダンナとおつかる。でもそれで「ハイ、さようなら」とはなれないからお互いに話をするでしょ。その中で男の方もじわじわと変わっていくと思う。各家庭の中でも、今そういうことが起きているんじゃないかしら。こうやって「政治をあなたまかせではいけない」という芽が少しずつ育ってきた。これが日本中に広がれば、と本当に思うわね。

自衛隊PR広告の追放を！ 今年もまた会社は掲載を強行 ●北海道新聞労組

私の主張

年に一度、全国の新聞に同時掲載される「自衛隊PR広告」をご存知ですか。といっても、この広告を意識してご覧になった記憶のある方は、多分ごく少数ではないかと思えます。私たち新聞の送り手でなく、受け手の読者であつたなら、恐らく見逃してしまっていることでしょう。

マスメディアが異常に肥大した今日、情報媒体としての比重が多少軽くなったかにみえる新聞。一年365日発行される新聞のうち、たった一日に載る一片の広告が、私たちの問題になっている自衛隊PR広告です。「そんな細な広告に目くじら立てることはないでしょう」と思われる人もいるかもしれませんが、しかし新聞労働者として、目をつぶって簡単に素通りさせることは出来ないのです。

この広告が載るのは、毎年11月1日付の朝刊です。だれが決めたのか知りませんが、この日は自衛隊創立記念日なのだそうです。政

府・防衛庁はこの日に、自衛隊を宣伝し、認知を浸透させるためのPR広告を全国の主要日刊紙に一斉に載せています。

掲載が始まったのは1974年。当初は朝日、毎日、読売、日経、サンケイの5紙だけでした。ところがPR攻勢は一挙に地方紙へも広がり、北海道新聞には2年後の76年から掲載されるようになりました。主要紙の中で未だに不掲載を貫いているのは、沖縄の琉球新報と沖縄タイムスの2紙だけです。どのような広告かをご存知ない方のために多少説明します。大きさは年によって違いますが、全7段(24×38cm)か全5段(17×38cm)。図柄は、ある年はファントム戦闘機の大写真、またある年は迷彩服に身を包んだ陸上自衛隊員のポーズ写真と変わります。84年



演習が、例年以上に華々しく繰り上げられました。こういう状況下にあつて、自衛隊容認、軍備拡大を促すPR広告の持つ意味は、極めて重大であると言わざるを得ません。

せん。この広告を阻止する私たちの運動に、みなさんの力をお貸し下さい。(本の申し込みは011・221・2111内線815、三冊以上は送料無料です)

室蘭市議会、非核都市宣言を否決 市民の1/3の署名に問答無用のヤミ討ち ●非核都市宣言のための室蘭市民連合

私の主張

人間の臓器移植のために、己の臓器を金で売る人が現われた。そしてその売買を斡旋する組織もあるという。金のためになると、人間は恐ろしいことを考えるものだ。

「マチ」も衰退し、貧しくなりと身を切り売りするような恐ろしいことを考える。マチに金が落ちるから中央競馬会の場外馬券場を誘致したいという。さらに港を軍港化し、自衛隊を誘致するよう、市議会でもマシメに議論されている。自衛隊が来ると、人口が数百人増え、市民税がいくら、寄附金、補助金がいくらと指折り数えている。この室蘭は、先の大戦時、日鋼、日鉄(新日鉄の前身)の軍需工場を抱える軍港だった。それゆえ、一九四五年七月米軍艦砲射撃にさ

は早期警戒機E-2Cの飛行写真でした。この図柄に84年は「守る力がなくては現実の平和は語れません」といったキャプションが付けられました。

私たちは過去9年間、この広告を紙上から追放する運動を続けてきました。その理由は①憲法違反の疑いの濃い自衛隊を政府が私たちの税金を使って国民に宣伝することは許せない②戦争に導くペンを二度と執らない、と誓った新聞人として黙視できないからです。防衛庁から掲載の申し入れが会社に入る10月、私たちは集中的に社内、外でのビラ配布、労組や市民団体、文化人への支援要請、沖縄の2紙との交流、講演会などを実施します。今年はポスターを500部印刷し、道内、外へ送って支援と共闘を呼びかけました。

ですが力及ばぬまま、今年もまた会社は掲載を強行し、私たちは不本意な新聞を読者へ送り届けてしまいました。これで9度目の敗北です。会社は「自衛隊PR広告も読者に提供すべき情報の一つ。問題の是非は読者に判断してもらう」と主張し、新聞社としての主体的判断を放棄する姿勢をとっています。

自衛隊や軍港を考える人達は詭弁を弄してでも、平和運動の押しつぶしを図ったのである。もうひとつ、この市民運動をつぶしにかかった勢力がある。この地に巣くう大企業である。

室蘭に住んでいて、ここを大企業城下町と言うことは知ってはいませんが、実感として解らなかつた。この市民運動をやって、それを感じ知らされた。社員は企業意識は強いが市民意識の全くない人達であった。署名活動をしたことのない者が、生まれて初めての署名を頼みに、震えるひざを押えながら、社宅街に入った。多くは趣旨に賛同して署名をしてくれた。なかには「不況だから核兵器の仕事でもあった方がいい」という猛者もいた。マチ場と違って社宅街には「主人に聞いてみなくては署名できない」という主婦がけっこういた。「僕はあなたに頼んでいるのです。ご自身が賛同すれば署名していいはず」と言っても「主人の立場上」と言って署名をしない。自分の判断で意思表示ができない人がいることに驚いたものだ。社員に上意下達を徹底させ、忠誠を誓わせたい大企業は、自覚

す。「掲載しなければ(政府に)色つきにみられる」とも言っています。

過去9度も敗北を重ねているわけですから自らの取り組み姿勢に反省は尽きません。ですが同時に明るい期待の持てる動きをハダに感じているのも事実です。それは読者や市民団体、労組のみなさんからの支援で、この運動が少しずつ外へ広がりはじめたことです。新聞労連内部でも少々孤立ぎみのスタートだったこの運動も、最近では労連ぐるみで取り組む形態が育ちつつあります。

また幸いにも、私たちのこれまでの試行錯誤の歳月を一冊の本にまとめるというチャンスに恵まれ、このほど「戦争と新聞」(径書房・1500円)を刊行することが出来ました。この運動に直接携ってきた当事者らが編集委員となり、ドキュメント風に仕上げたものです。読者からの反響に勇気づけられたことも少なくありません。

米ソを核とする東西陣営のらみ合いが続く限り、北海道に生きる住民の暮らしはたえず脅かされ続けます。昨年10月、北海道では「北の脅威」を想定した日米合同



ある市民意識を訴える市民運動とは相容れないものなのだ。

市民運動をつぶしにかかった大企業は、圧倒的な市民が願う反核平和の請願を、企業選出の市議団を使って否決した。さらに僕らの組織を誹謗、中傷する悪辣なチラシを市中に撒いた。そして僕らの集会に偵察を送り込むなど卑劣な行為をくり返した。

大企業城下町の威力はこれからもどんどん出てくるに違いない。市民運動のなかったこの町で、初めてこの運動を手探りで迷いつつ続けてきた。五万人の署名でも「不採択」という暴挙を簡単にするこの「土地柄」に初めて気付かされたものだ。こんな町だからこそ市民運動の原点に立って、市民の意識の改革を図る運動をしなけ

民衆連帯の「新次元」を！ ●吹田日韓問題を考える会

吹田市は大阪府の北部地域にあり、在住労働者の六五％が市外に職場を持つ典型的なベッドタウンである。

吹田日韓問題を考える会は、八年前、11・22事件政治犯李哲世を救う大阪の会の呼びかけで地域の青年労働者・市民などで結成された。この間、在日政治犯の救援運動、日韓連帯運動を進め、又、地域センター「えぼっく」の運営の中軸を担って来た。

本年は、戦後四〇年、日韓条約二〇年にあたり、中曽根―全斗煥による「日韓新次元」は更に強化されて行くだろう。今、我々自身による民衆連帯の「新次元」を創り出すことが問われており、特に、日韓労働者連帯の運動の前進が、急務としてある。昨春からの盛り

とを捨てさせよう。平和をつくり出す作業を続けていかなければ戦争の影はしのびよってくるのだから。

(増岡敏三)

上がる韓国学生・労働者の闘いは、韓国労働運動の新段階を示している。それに対し日本労働運動は真の国際連帯の道に逆行し、むしろ、権力者の描く「日韓新次元」の中に組み込まれて行くこうとしている。いわゆる全通問題はそのことをハッキリと示している。

我々は、全斗煥来日阻止―天皇会见粉碎闘争の中で生み出されて来た連帯の質をふまえ、「成果」を共有し連帯運動を質・量ともに拡大し、韓国民衆の眼に見えるような運動の実体を作り出す必要がある。その為にも、様々な闘いのネットワークを作り具体的な共同行動を展開して行かねばならない。

地域センターのネットワークを、

一九八三年三月、四年半にわた

る大槻水道設計労組の労働争議が解決した。この労働争議は職場占拠の闘いは、争議勝利を目指すと共に地域の様々な仲間との争議を媒介とした交流・結び付きの場でもあった。様々な意識で共有化された極めて自由な空間でもあったし、労働者・市民によって占拠された地域へと打って出る地域拠点でもあった。実際、争議の最終局面では、地域の色々な個人・団体の共同事務所の様をなしていた。二階は劇団の練習場、少林寺拳法の道場だった。そこへ行けば色々な人々と出会え、酒を飲みながら色々な話が出来たし、そんな居間の空間から何か地域が見えてくる様な可能性を秘めた闘いのようでもあった(一時期は、男の駆け込み寺と言われ、婦人層からひんしゅくをかった。それはオレだ

けか?)。そうであるが故に、職場を獲得する闘いと共に地域を獲得する闘いとして大槻水道の労働争議は解決(勝利)した。争議解決の全成果(新たな闘いへの新たな土壌と解決金)を地域での共同センター設立へと繋げていった。センターは「えぼっく」(英語・仏語で新しい時代の意味)と名

付けられ、吹田地域の様々な個人・団体の共同事務所、交流、情報交換の場、はたまた憩い場としてビルの四階の延べ三三畳の空間が思想信条を問わず解放されている。雑誌・機関紙、映画、AZセッケン、三里塚無農薬野菜等の取り扱いも行なっている。

この二年間、「えぼっく」は会議等それなりに利用され、やっと地域に定着した感がある。今年は色々な意味で左右双方から戦後の総決算がなされようとする重要な年であり、又、再来年の統一地方選も考え地域センターとしての「えぼっく」運動を強化して行きたいと考えている。具体的には、初夏の防災を中心とした健康フェスティバル、夏の反核・反戦集会、そして、月一回の連続講座・取り扱い雑誌の読書会、事務機・資料の貸出し等を企画している。地域の人が気軽に寄れるサロンとしても充実させて行きたい。

大阪では、最近、吹田センターの他に高槻・茨木・豊中・西成と地域のセンターが建設されている。こうしたセンター同士の連携も必要とされているようだ。

(加藤達哉)

第4回反トマ全国会議報告

●遠藤洋一(福生市民連合)



まあ全国会議の報告を、つまらないテレビニュースの決まり文句風にはじめる。「11月23日好天に恵まれた、さわやかな晩秋の東京・本郷に、全国津々浦々から『トマ喰い虫たち』が集まっております」―ところなる。

しかし、現実には第四回の全国会議は、世界最大の米海軍演習「フリーテックス85」への海上自衛隊の参加の疑いが濃厚となり、原子力空母カールビンソンの史上初の首都圏(横須賀)への入港という緊張した事態のなかで開かれた。参加者は北海道から九州まで、

本場に津々浦々からであった。全体の会議の日程は、主に三つの部分から成っていた。第一部は、あちら、こちら、あれこれ色々な立場で闘っている人たちのそれぞれ面白い問題提起。そして、分科会、翌日の全体討論とつづいた。モチロン、夜は酒の入った交流会。11月24日、二日酔いも若干いたかもしれない。大広間で二日目の議論がはじまった。

全体としての印象は、トマホークの配備が開始されたという現実が、「今、なにをすべきか」という各自の創造力を耕していた、といえるものだった。

更には、「みちのく85」ははじめ日米の共同軍事演習が、めざましい勢いで拡大・強化されていて、それはトマホーク配備の情勢と一つのものであるという認識が参加者みんなのものであったと言える。

そのうえで、トマホーク配備反対運動をどう創るのか、どう考えるのか、原点に戻っての議論がなされ、八五年へむけての具体的な行動計画が練られた。全部で12項目、それぞれの計画についての議論だけでも膨大な時間が費やされることが予想された。議論は少な

く、行動は多すぎるくらいがあった。なおかつ全部をこなすには、相当の覚悟が必要とも思えた。しかし、これは、会全体の合意なのだ。

1. 第5回全国会議を広島・呉で行なう。

2. 横須賀へのカールビンソン、佐世保へのテキサス寄港に抗議する緊急行動にとり組む。

3. 米韓合同軍事演習チームスプリット85に反対する行動にとり組む。

行動形態は各地で決める。日韓連帯運動の仲間たちとの共同のとり組みを追求する。

4. 四月に横須賀で全国・国際合宿を行なうという提案は、継続討論する。

5. 日本海平和の船の企画については全国運動として協力する。

6. 6月反核・反安保の大集会を東京で行なう。アジア・太平洋

「NO TOMAHAWK HERE」の国際デーとしての位置づけもあわせてもたせる。6月にむけたキヤラパンのような行動企画を検討する。

7. 全国運動と非核フィリピン連合との継続的な協力関係を確立する。

8. 『トマ喰い虫』は次回全国会議までに第2号を出す。その後は継続討論。

9. 第2次アンケートの集約日を12月末とする。1月に集計。

10. 核チェック・キャンペーンを開始する。各自治体への働きかけをはじめ。

11. 85年5月、軍事的通信網を主たる対象として全国一斉の反基地闘争をおこす。

12. 自由ラジオ運動、非暴力直接行動の実行など、具体化のための討論を継続する。

とまあ、ざっとこれだけ。これは大変なことですよ。しかしあせらず、気負わず、まず今日できることを今日のうちにやれば「トマホークは止められる」の確信と実行につながる。知恵をあつめることは有効だと、そろそろ寒くなってきた本郷三丁目の駅から、横田基地のある福生の駅まで帰ってきて、考えています。



もの申す!

新しいものもいつかは古くなっていく

●第4回反トマ全国会議での発言より

角倉生 (学生)

んかに言わせると、そこに安住しているというか……。

70年反安保闘争のとき、ぼくは小学生だったから何も知らないんですけど、おそらく、既成の諸運動に対して「加害者の論理」というのがとても新鮮で、大きなエネルギーの源だったと思うんです。

その論理の中で、ここにいらっしゃる方々が青春を燃やしつくしてがんばった、そう思うんです。(笑)でも、その想いが強すぎるんですか、そうした70年の思想から抜け出せないでいるような気がします。なまじきなようですけど、ぼくは



たしかに「加害者の論理」は大切です。日本のアジア民衆への敵

核を「せり上げる」という戦術問題としてとらえている限りは、今日の危機は十分にとらえられない。これじゃ90年安保闘争どころか80年代の闘争もやってこないというのがぼくの考えです。

対はさらに強まっているのですから。同じように、反安保の視点だっけなくてならないものです。しかし、反トマホークを言うとなれが落っこちちゃうってのは70年を闘った人の古い論理だと思うんです。

でしよう。被害者であることをやめるには、加害者であることをやめる以外にないという関係が生まれていっているんです。トマホークを言うことで、これまで観念的にしか言えなかったアジアや第三世界との関係が、むしろ、言いやすくなったという思いがぼくなんかにはあるんです。

ここに集まっている方々は70年にはいろんな意味で先を走っていた人だと思っています。けどそのときのままの認識では、核管理社会がモータリゼーションに進んだ今日の危機には間に合わないんじゃないですか。危機が進行している分、運動が起きていっているんです。反安保と言っていれば安心するっていうんじゃないだと思っんです。

図解を豊富に取り入れ、説明文を必要最小限におさえた反トマホークのパンフを作りました。題して「ビジュアル核軍拡」200円。ご購入を。申し込み・東京都渋谷区代々木1の20の4「日本はこれいいのか市民連合」、または03・469・8790 角倉生まで。

大人たちがはづかしくなる紙面を!

●石川県 和田浩

横須賀へカールビンソンが入港した日に、中学一年生の娘とテレビのニュースを見ていた。

記者が横須賀の街角の小さな店でいそいそと働いている年輩の男の人に、「カールビンソン知ってますか?」と尋ねたところ、「いや、知らんなア」という呑気な応えしか返ってこなかった。この場面を見ていた娘は、突然「あの男なんや! 自分の住んでいる街に核兵器を積んだアメリカの空母

が来たのにどうなっているんや!! あの人若い時に悲惨な戦争を経験したのに、よくも知らんなア」とゆうとられるもんや!!」と憤った。

私は娘の憤慨に同感したものの、「いや、知らんなア」と言う人を構成している大人の一人であることに恥ずかしさと責任を感じた。

『トマ喰い虫』改裝一号は、国内外の反核状況や、各層の人々

身ひとつの決意を日々自ら問い詰めて、決意を決意していくこと、といった傾向があると思います。これにはいろいろな経緯があることは承知しています。獲得すべき運動目標のためには、参加する各人に鋳型にはまった行動を強要するということタイプの運動への反省が、人々の美しき決意には含まれていいます。確かに運動に奉仕する行動の強要などまっぴらです。そのことを確認したうえでなお改めて、我々の決意精進主義的体質を考えなおしたいと思うのです。「海外から」の欄を読むとわかることは、我々の反トマホークの運動は

改裝一号拝見しました。見逃さない情報あり、忘れられない文章あり(とりわけ栗原貞子さんの一文)で、硬軟の混じりぐあいもよろしく、まあ「よいお湯加減」と読みました。

ただ誌面で表明されている各人各団体の決意を見ていると、『トマ喰い虫』一冊の問題に留まらない大きな問題、日本の市民運動の質に関わる問題に直面している感じがします。どうも我々には美しき決意に自足するといった面がないでしようか。結果を問うのは品のないことで、問えば絶望するばかりですし、出来ることはおの



無力の過信はとてども頹廢的なこと

●大阪府 萩原弘子

孤立してもいいし、無力でもないということなんです。このいやらしい大団日本の我々には、我々の運動を過小評価することだけは禁じられていっているのではないのでしょうか。自分にできるせめてものことであるささやかな美しき決意は、実はそのまま世界に晒されている、それを自覚せずに自らの無力を過信し続けることはとても頹廢的なことです。

『トマ喰い虫』の編集方針は、ネアカ主義、具体主義と拝察します。その線で元氣いっぱい、常に攻勢でいって欲しいと思います。

実戦さながらの フリーテックス85演習

アメリカ海軍は、十月中旬から十二月初旬にかけて、「フリーテックス85」という第二次大戦後最大規模の演習を行った。この演習には空母五隻を含む艦艇六十五隻、航空機約五百機、将兵三万四千五百人が参加、インド洋と太平洋など「地球の半分に及ぶ」海域で、実戦さながらの演習を展開した。

今日の安保

レーンを確認、制圧海域を広げながら次第に北上。空母カールビンソン、エンタープライズ、ミッドウェーを中核とする空母機動部隊約三十隻は、沖縄東方から伊豆沖を経て十一月二十九日には三陸沖に達し、ウラジオストクなどのソ連軍基地（にみたてた青森県の

天ヶ森射撃場）に対する攻撃訓練を行った。

この演習に、十一月二十七日から三十日まで、海上自衛隊艦艇十六隻とP3Cなどの航空機が参加し、米空母機動部隊の護衛訓練を行った。

カールビンソンとミッドウェー両空母群は、津軽海峡を通過して日本海に入り、ソ連の戦略基地ウラジオストクに八十キロまで「接近」、ソ連軍の多数の艦艇と百機以上の戦闘機などが「応戦」して、「第二次大戦後最大規模の反応」（米当局者）を示したと言われる。

動く核基地 カールビンソン

十二月十日、横須賀に入港した原子力空母カールビンソンは、航空機九十五機、兵員六千人と、航空燃料一万トン、弾薬三千トンを積み、無補給で十六日間連続戦闘が可能で移動航空基地である。最大速度毎時約六十キロ、核燃料は十三年間補給を必要とせず、世界のいたるところに「軍事介入」するために全速力で駆けつけることができる。

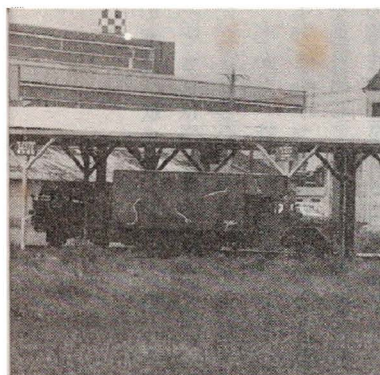
搭載する航空機はF14戦闘機二

十四機、A6攻撃機十二機、A7攻撃機二十四機、S3A対潜機十機、SH3D対潜ヘリ八機、他にE2C早期警戒機、空中給油機、電子戦機、写真偵察機を各四機。このうち、A6、A7、S3A、SH3Dは核攻撃可能で、B43（一メガトン）、B61（五百キロトン）、B57（二十キロトン）などの核爆弾を積むことができる。米空母は、核爆弾を約百発ずつ搭載する。

米陸軍備蓄構想と 相模補給廠

十一月三日付「朝日新聞」は「米陸軍兵器、相模原備蓄に変更―韓国から戦車など」と報じた。その後、M109自走砲六両がすでに搬入済みであることも判明（米軍筋）。すでに物資の備蓄はすすんでおり、車両についても千数百両が備蓄される計画であるという。備蓄の目的は何か。八四年春に報じられた北海道から、相模原に変更されたことで、事態は見え易いものとなった。アジアで米陸軍が直接介入した戦争、朝鮮戦争とベトナム戦争。この二つの戦争で敷かれた八相模補給廠、横濱ノースドック、朝鮮半島・ベトナムV

という補給兵站ルートの「復活」である。ベトナム戦争以降、在日米陸軍はずっと縮小傾向を示してきた。しかし、八〇年の米レーガン政権登場以降、事態は少しずつ変わる。八一年秋以降の日米陸軍合同演習の開始、本格化。八四年、陸軍特殊部隊（グリーンベラー）の沖縄配備。相模補給廠もここ三年ほど、有事再使用の整備をすすめてきた。巨大な倉庫・工場群の補修、三年計画の下水処理施設工事。加えて物資・車両の保管・供給も維持されてきた。注目すべきは、米陸軍の基本パターンの迷彩車両も数多く見られることだ（写真）。確認できるだけでも八種類である。相模補給廠への「備蓄」は朝鮮半島などにおける戦争及び米陸軍の介入の可能性を一層明らかにしている。（相模補給廠監視団）



米韓合同演習

「チームスピリット」の Q&A

ハンケオク
韓桂玉さんに聞く
軍事評論家

Q チーム・スピリット演習は今年で十回目を数えます。どのような演習としてスタートし、何を目標としているのですか。

A 米韓合同演習「チーム・スピリット」が始まったのは、米韓がベトナムから撤退せざるをえなくなった時です。それまでのベトナムと同じように、南北が対立している朝鮮半島を固めようというねらいから、在韓米軍、韓国軍のほかに、在日米軍、米本土の



部隊も加えて、大規模な緊急投入実戦共同演習として始まりました。

Q 昨年のチーム・スピリット84の特色はどんな点ですか。

A ①動員兵力二〇万七〇〇〇人と史上最大の規模になった。②原子力空母、原潜、B52、155ミリ砲など核攻撃手段の集中。③米軍の作戦指揮下の「エアランド・バトル」（空地戦）という電子戦が展開され、最後は南北の軍事境界線を突破し、朝鮮民主主義人民共和国の奥深く侵攻する作戦であった。④この作戦には韓国の郷土予備軍、民間防衛隊まで、すべての戦闘手段が動員された。その特徴をひとことという、北朝鮮・ソ連を敵とする北進・核戦争の実戦演習といえるでしょう。

Q それはトマホークのアジア・太平洋への配備と、どのような関連がありますか。

A 米国や日本の政府は、「北の脅威」に対処するためであると言っていますが、朝鮮半島の現状やチーム・スピリットの展開からもわかるように、これは北朝鮮・ソ連への核包囲作戦の一環といえます。そして、これまで以上に日本周辺が核兵器であふれる状況が生まれ、偶発核戦争の危険性が日増しに増大してきています。

Q チーム・スピリット演習で日本が果している役割はなんでしょうか。

A 簡単にいうと、日本なしにはチーム・スピリット演習は成立しないということです。演習に参加する艦艇、航空機、海兵隊、その他の装備の多くは、日本各地の米軍基地から送られたものです。関釜フェリーまで使って兵器・装備の輸送をしているのです。次に、朝鮮半島での演習の後、米機動部隊は日韓、日ソの海峡、日本海を抜けてソ連領海にまで北上し、攻撃的な演習を行なっています。

また、日本の自衛隊がチーム・スピリット演習に連動して、日本海や太平洋側で米軍と共同、または単独で演習を行なっている事実

もきわめて重大なことです。

日本は朝鮮半島有事の際、発進、攻撃、兵站、補給基地として全面的に使用されようとしていることを、チーム・スピリット演習は示しています。

Q 昨年の全斗煥大統領訪日・天皇との会談、日韓の統幕（合参）議長の相互訪問などがあり、日米韓の軍事一体化がさらに進んだといわれています。そうした中でチーム・スピリット85をむかえるにあたって、留意すべきことはなんでしょうか。

A いわれるとおり、米軍指揮下の米日韓軍事一体化は急速に進んでいます。日米共同作戦計画および軍事立法研究では、対馬海峡共同封鎖や自衛隊の朝鮮半島出動（邦人救助や権益保護名目の）、あるいは避難民対策がおりこまれていると見られています。

当面、反核反戦運動、および三者（北朝鮮、韓国、米国）会談実現への運動を強め、チーム・スピリット演習に対しては、その危険な動きの実態をしっかりと見きわめていく必要があると思います。

（文責・編集部）

き間風が吹いて、「それにしても楽しくないね」って、それをいまだ多くの人たちが気がついたり、指摘されたりしているわけでしょう。豊かになればなるほど、何か貧乏になってくみたい。それは、たとえばひとつの音楽を生で一年に一度しか聴けなければ、手に汗にぎり全神経を集中させるだろうに、いつでもテープで聴けると思っている、グウタラに聴くようになる。結局、それは生き物としての緊張感を失うことなんじゃないかと思うんです。

ぼくはどちらかっていうなら非武装中立の人間なんですけれど、いまの日本人は軍事に関してものすごく無知になっちゃったと思うんです。かつての日本の陸海軍ってカワバリ意識が強くて、負けるまで、同じ小銃でも全部名まえが違ったの。飛行機も別々に作ってたわけ。いまの自衛隊にも同じことが起こりつつあるんです。陸、海、空で用語が違いはじめてる。そういうことは国会でも問題にならない。現実には軍隊が機能してしまっているんですから、現状維持が縮小か、あるいは質的に変えるかの前に、まずシビリアン・コントロール（文民統制）を確立しなければいかんですよ。ほおっておくから小役人の集団として、またまた一番悪しき方向へ動き始めています。

知らせなかったことですよ。絹を紡いで軍艦を買うお金をつくった女工たちに、戦艦大和があるなんてひとことも言わなかった。

ソ連とアメリカが考えていることというふうな決めちゃいけない、どの国も国家の論理で動くんですね。国家としては日本も最低の国だと思っています。だけど国としては好きなんです。国家と国、自然とくっついた国というものは、分けて考えなきゃいけないでしょ。

ぼくは日本っていう国は、基本的に情なくらいだらしないく世界中全部と仲良くななきゃいけないんだと思う。あそこの体制が気に入らないとか言っちゃいけない。それはその国の人にはまかせられないと思う。ただ、独裁国家にせよと武器供与したり「経済援助」をして利権をえようなんていうのだけはやめてほしい。

ぼくなんかごく常識的な人間だけど、驚くほど全体が保守化してますね。みんな

な社会のことに関心持たないですよ。若い人たちは自分の感性だけしか信用しない。それは一見、軍国化や全体主義に対する歯止めになるように見えるけど、実際はかみあってないんだものね。

ナウシカについて言えば、ぼくが感じている不安が、じつは多くの人のものであったことだと思っんです。ぼくもむずかしいエコロジーのことは判りません。ただ勘でおかしいと思うだけです。見てくれた人も勘でおかしいと思っっているから映画がヒットしたんだと思うんです。ぼくは勘っっているのは、一番信用出来るものだっと思ってますね。

（85年1月7日 東京・杉並にて）

反トウ・フーパー・塾

●江の島に軍艦がやって来る
（藤沢市 広瀬健二さん）

84年11月に相模湾で自衛隊が防衛庁長官を迎えて行なった「観艦式」。来なかったのは天皇艦だけという戦後最大一大イベントに、対抗したのがこのコピー。庶民感覚素敵。

●ヨコスカ市民会
カールビンソンに毒（核）入れたでみつけてみい

核人21面相レীগン
（横須賀市 斉藤五月晴さん）

じつはこの大傑作は幻のコピーとなつたのですが、いかにもやばいトマホークも作った斉藤さん名取り襲名近し。

初夢

初夢 井出孫六

木は氣に通じ、また生にも通ずると、ある人から教えられたことがあります。生一本とか、生ソバというじゃありませんか。

木、氣、生という三つの漢字は音もちがうし、意味の連関もありませんが、和音ですべて「キ」と発音します。そしてなんとなくこの三つの文字が意味連関をしているように思えるのです。木が空

氣を清浄にするとき、われわれの生が保てるからです。

まだ漢字が輸入されるまえに、日本列島に住む縄文人は「キ」ということばを使い始めたのではないのでしょうか。縄文人はむろん樹木が酸素をつくるメカニズムを知っていたはずはありませんが、木が氣をつくり、そして生を保つことを本能的に知っていたのかもしれない。

「キ」という音は、日本人の心をとくキーワードのような気がします。

ぼくは日常生活のなかで、あまり木や花や草のことを気にしない方なのですが、いつか中国を旅したとき、二カ月近くいっしょに歩いてくれた通訳の蔡さんという方が、別れにのぞんで、「あなたはずいぶん植物に関心をお持ちなのですね」といいますから、「どうしてですか」と問うと、彼は「旅のあいだ中、植物を指さしては、その名をきいていたではありませんか」と言うのです。言われてみてはじめて、ぼくは行くところ、珍しい木や草の名をきいてノートに書きとめていたことに気づきました。

中国にかぎらず、アメリカでも、ソ連でも木や草の名を人びとがあまりご存知ないの是一般的のようです。日本人ほど、むかしから、木や草を詩歌にうたってきた民族は少ないといっってよいかもしれません。

とはいえ、ぼくらは、一本一本の木や草には異常なほどの関心をもっているが、森とか林となると、それほど多くの関心を示さない風があるのかもしれない。いくつかある統計を見たことがあります。東京とボンの市民に対して日

曜日の過ごし方を問うたアンケートですが、ボンの市民の六〇パーセントが「森に行く」と答えているのに対して、東京の市民の「森」と答えた人はわずか二パーセントという数字です。

この無関心が、ここ二十年ほどのあいだに東京から武蔵野を消滅させてしまったのかもしれない。国木田独歩の『武蔵野』をよく武蔵野市とか三鷹界隈と誤解するむきがありますが、あれはたしか渋谷あたりの風景だったはずですよ。いま、武蔵野は残念なことに、ごく限られた「公園」のなかにしか残っていないことに気づいて、ぼくは愕然とします。

日本人には木や草をめぐる気持はあっても、森や林を見る感覚がついに育ちきれなかったとでもいうのでしょうか。

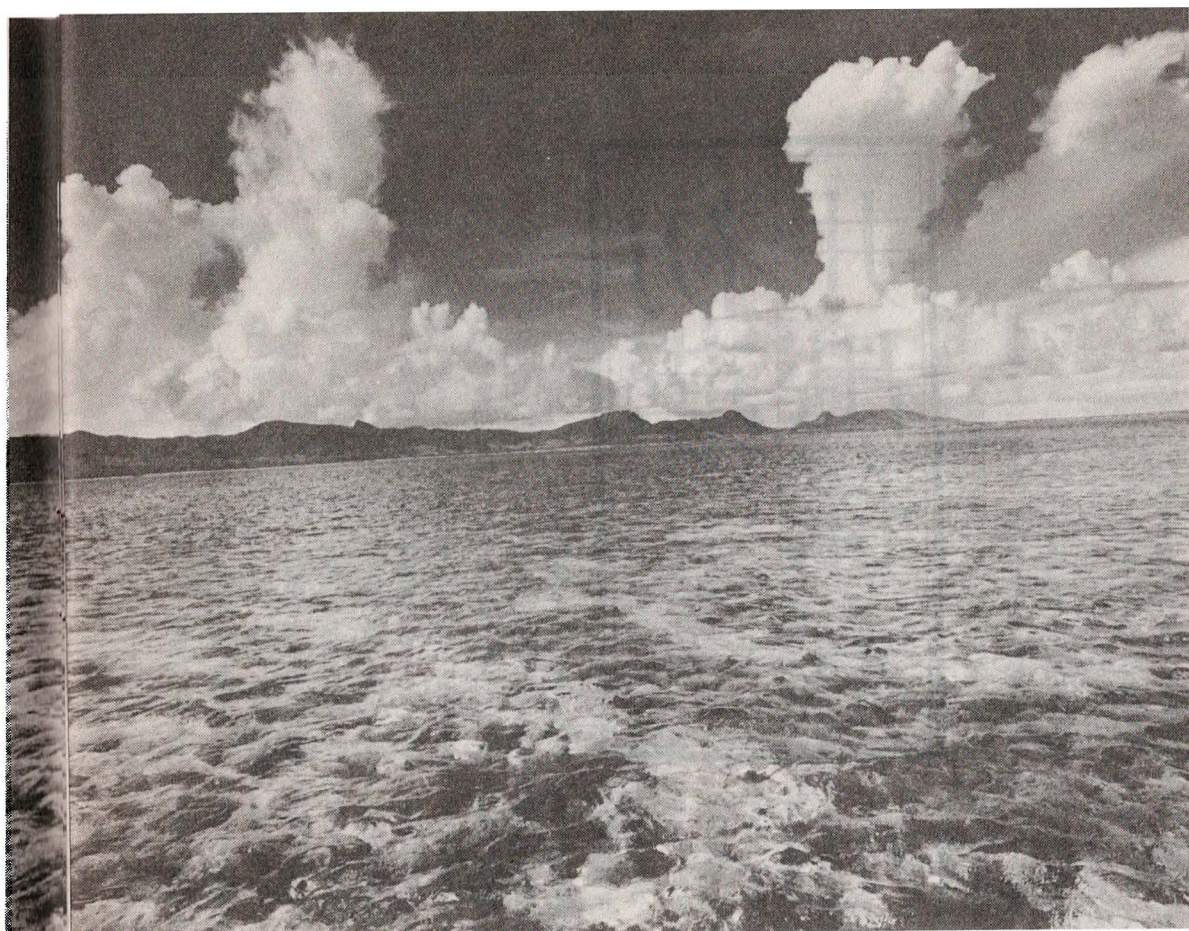
そのような誤解を、昨年の秋、逗子の市民たちが池子の森を守ることで解いてくれたことは、ぼくに勇気のようなものを与えてくれました。今年は国際森林年だそうです。世界中の軍備を、荒廃した地球の森づくりに向けられたらというの、ぼくの今年の初夢です。

白保の海が殺される！

仲村 馨

八重山・白保の海を守る会

写真／
小橋川 共男



幼い頃、川遊びをしていたなんとも美しく不思議な光景を見た思い出がある。川の水の中に長く伸びた葦が、一つの輪を形づくっていた。そしてその輪の間を、二十匹かくの小さなフナたちが列をなして泳いでいたのである。それはまるで、おとぎ話に出てくる竜宮城を想わせる光景であった。私はしばらくの間、驚きと感動をもってその光景を眺めていたが、突然、そのフナたちを手に入れたという衝動に駆られ、水面に足をつっこみ、両手でフナをすくおうと左右前後に動かし続けた。一瞬のうちに川は茶色く濁り、乱れた。結局、一匹のフナもすくうことができず、あきらめて川からあがり、もう一度さっきの場所から川を見た時、あまりもの変貌ぶりに胸が痛んだ。そしてもとの姿にもどってくれるよう祈りながら、じっと川面をみつめていたが、水の濁りはおさまっても、葦は再び輪をつくることなく、フナたちは二度と姿をみせてくれなかった。自分の

心の中に、ただ後悔だけが残った。白保で出会った「竜宮城の世界」昨年（一九八四年）の三月、新石垣空港建設問題で揺れる沖縄の石垣島白保部落を訪れた。白保のウミンチュ（海人）に新空港建設の予定地として埋め立てが計画されている海を案内された時、再びあの「竜宮城の世界」に出会ったという気がした。サバニ（小さな船）に乗って船着き場をちょっと離れた所で、海中が真っ黒になって見えた。何だろうと目を凝らして見ると、モズクである。ものすごい量のモズクが咲き乱れているのだ。そこからもう少しサバニを進めていった所が、水の深さ十センチから三十センチ程度の浅瀬になっていてサンゴ礁のリーフがどこまでも広がっている所である。サンゴ礁の間を小さきさまざまな魚たちが悠々と泳いでいた。そして遠くの方の、水面からつき出た岩が長く続いている所では、おばあさんたちが、カゴをもって青々と

生えるアオサを採っていた。

「なんでこんなにすばらしい海を……」

「ああやって一人のおばあさんが採ったアオサだけで一日に一万五千円以上になるんだ」「白保の海はまさに『魚がわく海』という表現がピッタリのところだ。成人した男がモリ一本で、十分家族を養っていきけるよ」海人の一人で真っ黒に日焼けした初老のおじさんが、そう語ってくれた。彼はその他にも、どれだけの大きさの魚がとれるかということを身ぶり手ぶりを交えて話し続ける。しかし、誇らしげに、うれしそうに話す彼の表情が突然、とてもさびしい表情に変わった。そしてつぶやく。「なんでこんなすばらしい海を埋めてしまおうとするんだらうねえ」

各地へ急速に広がる反対運動

この、世界でも一、二を競うほど美しいといわれるサンゴ礁の群生する白保の海を、幅三〇〇メートル、長さ三キロメートルにわたって埋め立てて、二五〇〇メートルの滑走路を有する空港をつくるというの、新石垣空港建設計画である。新空港の建設理由としては、①本土直行便による産業の

振興 ②観光産業の振興 ③交通の便の改善 ④新空港建設事業による地域の繁栄 ⑤現空港の危険性、などをあげている。それに対して元の白保部落の住民は、海がつぶされ、サンゴを死滅させてしまうことに対する自然保護の立場、騒音公害、住民の生活権の破壊、軍事利用の懸念などから反対運動に立ち上がった（地元住民の九四％の人が反対の立場を示している。そしてその反対運動は石垣島全体、沖縄本島、日本本土へと急速に広がっている。現在では、そのサンゴ礁の価値の高さから、世界各地からも関心を持たれている。

誠意ある話し合いもないまま……

これほどの大問題なのに、石垣市、沖縄県、そして日本政府は、一番の被害を受ける地元住民に対し、これまで一度も直接的な誠意ある話し合いの場を設けていない。また、具体的な環境アセスメント、経済アセスメントも提出できずにいる。にもかかわらず、八四年九月には、機動隊を導入して、三日間にわたる埋め立て申請のための環境調査を強行した。そしてこの間に反対派の三名を不当逮捕し、うち一人を頭蓋骨折の重傷にい

たらしめたのである。

この新石垣空港建設問題は、決して「遠い南の島での出来事」ではないはずだ。沖縄で前例をつくった不当なやり方が、やがて全国各地へ波及していったということは、これまでの歴史からも明白なことだ。さらに多くの人々が、この問題を自分の身近にひきよせて考え、関心を持ち続けることを願っています。

●支援・カンパの送り先●

新石垣空港建設阻止委員会
郵便振替 鹿児島二一五四六六
代表 迎里 清
電話 〇九八〇八六七一〇二



つたつたつたつ

中曽根がレーガンに
惚れたのは……

（「十九の春」のメロディで）
作詞 タケちゃんバンド
& 沖縄研究会

中曽根がレーガンに惚れたのは
同じ戦争好きの間から
反共、反共といひながら
軍備拡大するばかり

レーガンが中曽根に惚れたのは
海峡封鎖にシーレーン
不沈空母で守るのは
アメリカとレーガンの
ことばかり

巡航ミサイル トマホーク
グリーンペレーに海兵隊
今でもまだまだ沖縄は
いくさの島だよ 基地の島
（もと歌）

私があなたに惚れたのは
ちょうど十九の春でした
今さら離縁というならば
もとの十九にしておくれ
（84年11月11日、反核ライブ・
トマホークの料理法より収録）

海外から

ニューカレドニア

フランス植民地
主義と闘う先住
民カナク

「我々是人種闘争をしているのではない。ヨーロッパ人に象徴された植民地体制と闘っているのだ」
南太平洋メラネシアのニューカレドニア先住民カナク人の独立運動指導者の一人カナク解放戦線のウリゲイ書記長の言葉である。

フランスがニューカレドニアを植民地としたのは一八五三年のこと。流刑地とされ、ニッケル鉱の宝庫であることが発見されるとともに、十九世紀後半大量の囚人が送りこまれた。刑期終了後、彼らは農地を与えられた。先住民を居留地に押しこめ、奪った土地である。植民地支配前には二十万もいた先住民は、虐殺、疾病等のた

めに、一九二〇年には三万人以下になった。現在全人口一四万五千人のうちメラネシア系住民はわずかに四三％の六万二千人にすぎない。一九六〇～七〇年代フランスがおしすすめた集団移住政策の結果、ヨーロッパ人五万四千、その他はポリネシア、インドネシア、ベトナムなどからの移住者となっている。こうした状況の中でカナク人は土地をもたず、国籍もない。ミッテラン大統領は選挙に際し、カナク人の独立闘争を全面的に支持し、独立の権利を保証すると公約した。しかし政権獲得後、ミッテランのニューカレドニア政策は先住民を裏切るものだった。名目だけの土地改革を行ない、また一九八四年内に内政自治権を与え、五年後の一九八九年に独立か否かを問う住民投票を行なう方針を打ち出した。

一方、カナク人は八六年までに独立を達成することを要求し、そのための選挙法改正を求めた。フランスのいうニューカレドニアの自治権は、全人口を対象としたものである。カナクの人口が半数以下に減った現在、そして「既得権」を手離すまいとする白人植民者が

権力を行使する中で、カナク人の自決権を認める真の独立は達成しえないことを予見したからである。そうした理由で去る十一月内政自治移行のための領土議会選挙が行なわれたが、カナク人の八十％以上がボイコット、投票率五十％以下の選挙は無効と宣言し、独立推進派のカナク人は、十二月一日ジャンマリー・チバウ氏を大統領とする臨時政府を樹立、カナキ共和国を創設した。新政府は声明の中で「カナクの独立は単一のグループで決められるものではなく、人種的背景がなんであれ、植民地主義、資本家によるあらゆる搾取、人種的分断のないカナキで、カナク人と共に自由に生きようとする意志をもつ全ての人によって決められるものである」と謳っている。

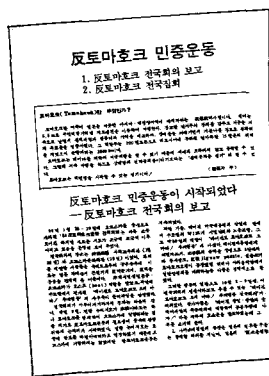
韓国

「青年イエス」
日本の反トマ運
動を紹介

韓国の全教会（教派を超えた）

青年会議が発行している「青年イエス」の八四年七・八号で、日本の反トマ運動が四ページにわたり紹介された。
同編集部による解説では、トマホークのもつ機能や性格が説明されており、「反トマホーク民衆運動がはじめられた」と題する章では、八四年一月に開かれた反トマ全国会議の報告（朝日ジャーナルに梅林宏道氏がまとめたもの）が詳しく紹介されている。特に、八三年のレーガン訪日、訪韓に反対する闘いや、全国アンケート調査の内容、その結果が詳しい。

また、全国会議での討論や決定についても報告され、とりわけ昨年六月十七日の集会で採択された集会宣言は全文紹介された。
最後に、「トマホークは、核戦争をはじめることのできる兵器であり、その極東配備は、アジア民衆をさらに抑圧するものである」と、その危険性を訴えている。



クワジェリン

米国政府を相手
どり、ミサイル
実験基地使用中止の
訴訟起きる

米国の核実験でモルモットのよう扱いをされ、その後もミサイル実験のため小さな島に押しこめられているマーシャル諸島の住民が、強大な米国に対し不屈の闘いをいどんでいる。

米国が長距離ミサイル実験のための主要な基地としているクワジェリン環礁の土地所有者が、去る十二月五日米国政府を相手どり、クワジェリン・ミサイル実験基地使用中止を求める訴訟を起こした。小さな島々が首飾りのように連なってきたいくつもの環礁からなるマーシャル諸島は、日本の植民地支配下にあったために太平洋戦争にまきこまれ、米軍が占領、戦後一九四七年以来、国連の信託統治領として米国の管理下にある。信託統治下の住民の独立を目指して、その経済的向上をはかる義務を負う米国は、その義務を果た

すどころか、ミクロネシアを自らの戦略基地として位置づけてきた。マーシャル諸島は、ビキニ、エニウェトックを中心に核実験の場として利用され、一九四六年から五年の間に六十六回の原水爆実験が行なわれた。三十年経った現在住民は故郷を失ったばかりでなく被曝障害は増加し続けているという（日本は唯一の被爆国ではない）。

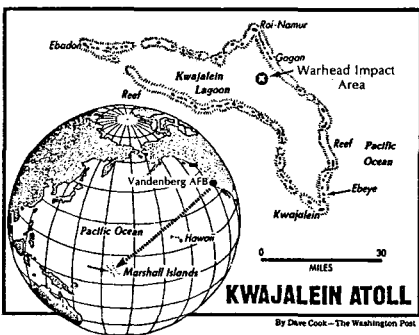
それに加えて米国は環礁としては最大のクワジェリンを軍事基地として確保してきた。大陸間弾道ミサイル迎撃実験に「最適」の場として選んだのだ。このため、クワジェリンの五千人の住民（土地所有者）は環礁の南端にあるわずか三百平方kmの小さなイバイ島に移住させられた。他の環礁から移住させられた人々を合わせ、現在イバイには八千五百人もの住民が、文字通り押しこめられている。イバイの住環境はひどい。ベニヤとトタン張りの小屋状の家がぎっしり並び、一軒に平均十数人住み、一度に全員が寝られないような状況である。また住民にとっての大きな問題は水道や下水道の不備で、医療施設の不備と合わせ、伝染病の流行、幼児の高死亡率をまねい

ている。雇用といえば、クワジェリン基地での掃除、荷役等雑役で約五百人、それとイバイ内でのマーシャル政府の仕事で約二百人。大半は職もなくイバイに在るしかなく、こうした悪条件がアル中や非行の原因となっている。かつてのような自給のすべのない住民は、缶詰めや冷凍肉を金を出して得る以外に生きていけない。米国の信託統治政策をあらわすものに「ズー・セオリ」（動物園理論）」という表現がある。動物園のようにオリの中にミクロネシア人を入れ、殺さない程度にエサを与えておくという意味である。

しかし、オリの中に入れられたマーシャル住民は決して飼いつけられてしまった訳ではない。一九八二年、名目上の「独立」とひきかえに、ミクロネシアの軍事基地

化を永久的にすることを目的とした「自由連合協定」とクワジェリンの基地使用に反対し、土地所有者五千人を代表するクワジェリン環礁組合は「帰島作戦」―故郷の島々に渡り、抗議の座り込みをする―を展開。同年六月から五ヶ月間、千人以上の人々が立入り禁止になつていた環礁内の島々に渡りテントをはり「再移住」の行動を行なった。この間、米軍は様々な嫌がらせを行なったが、久々に島に帰った人たちは、きれいな海で泳いだり、本来の自然の中の自給生活を楽しんだ。

この住民の抗議行動で、八月に予定されていた自由連合協定の住民投票は延期された（一九八三年九月に投票は決行され、一応承認された形になっている）。基地使用に関しては、今後三年間にイバイの生活環境向上のために一千万ドルの資金を提供する等の条件で三年間の協定が新たに結ばれた。今回のクワジェリン土地所有者による訴訟は、米国がその協定にもりこまれた義務を果たしていないため、協定の破棄を要求するものである。当然すぎる程当然の要求である。





「反トマホーク運動は反安保をおとしたのって批判があるんだけど、どう答えますか」

「おろしてはいない、というだけじゃあダメなんでしょう」

「うん。主張として掲げていても、反安保の視点がなくなっているという批判だからね」

「そうだとするとむづかしいな。」

反安保を堅持しているという運動も、主張に反安保を掲げる以外に、これぞ反安保だというものをつくりだしているとは思えないから」「そうだね。かりに基地へむかうことをその条件とするなら、反トマだってそれだけで十分反安保だ」

「だから、むしろ、反トマⅡ反核のはばひろ主義が「あぶない」ってのが批判の中味じゃないかな」「はばひろを求めるあまりの無節操というわけかー。もともと小さくやることにのみ訓練されているボクらだから、その心配はよくわかる（笑い）」

「だからすべりどめをって言った

ら、あぶないところまで近づいてもないのに、そんな心配は早いってTさんに言われたね」

「つまり、ボクらがはばひろくって言っても言わなくなっても、そんなに変わらないってことさ」

「ただこういう違いはあるかな。」

ボクらは、反核は反安保でなければならぬと、運動の入口で反安保のパスポートの提出を求めることはしない、と」

「反核はこうあるべきという論にぎやかだった82年。あれが無い、これが無いと、反核の足りない点を指摘するのではなく、まず自分の反核を語れとYさんが言っていたんだけど、そうやって自分の反核を語りはじめた人たちは、ごく自然に反安保でもあるという反核をつくり出しているんだってことにもっと目を向けてほしいね」

「ヨコスカの「草の根署名」の人たちが出した、カールビンソン入港反対の意見広告の「私たちも」というところが希望なんだ」（に）

第五回全国会議

5月2日(土)・3日(日)

場所・広島



へ反トマホーク元氣印ニュース
●カナダのトロントでトマホークの誘導装置を作っている「リットンシステムズ・カナダ」社は湧き上がる生産中止の声にとりまかれて

●ニュージーランドを訪れた中曽根首相を空港で出迎えたのは「反トマホーク」の横断幕だった。
(以上PCRのレポート)

☆国内に目を転じると……

●新年早々、富山県は米通常型潜水艦「ダータ」の富山新港への入港を拒否。「ダータ」は入港を断念した！

●殺人集団「グリーンベレー」の北海道ニセコ地区での雪中訓練は反核反原発全道住民会議などの闘いによって中止に追い込まれた(1月18日)。

●昨年末、沖縄の那覇市長が、那覇軍港に、核疑惑艦船の入港拒否をつらぬいている神戸港方式を適用できるかどうかの研究をはじめると言明した。

へ訂正とおわび／前号(改装1号)の8頁に「版画・和田浩(石川県)」とありますが、これはまちがいです。おわびして訂正します。

編集者



へおたよりください／同封のハガキで感想、意見、アイデア、各地の報告を寄せて下さい。待ってるよ！

この号の編集に参加した人

新倉裕史、加納 明、梅林宏道、大橋成子、山鹿順子、林 夏子、大久保青志、今井 明、高木仁三郎、井上年弘、佐藤正兵、高幣真公、相馬正男、井上澄夫

『トマ喰い虫』改装2号(通刊7号)
1985年2月10日発行 頒価250円
発行 トマ喰い虫社
〒112 東京都文京区春日
1-8-6 中森ビル2階
電話 03・813・1953
郵便振替 東京6-136148
(口座名 トマホークの配備を許すな!首都圏運動)

トマ喰い虫とは、横須賀の久里浜中学生が、考え出したトマホークをたべてしまう生き物です。反トマホーク運動のマスコット。